

## 〈LIND〉のサジェストペディア

川 口 義 一

本稿は、去る3月9日から12日までの三日間、東京で行われたサジェストペディアのワークショップについての報告である。このワークショップは、東京ゲート・インスティテュートと産業能率大学サジェストペディア研究室が企画したもので、講師は、〈LIND〉の所長であるチャールズ・シュミット (Charles SCHMID, Ph. D.) であった。シュミット博士は、ニューヨーク大学・テキサス大学での教歴を持つ教育心理学者で、アメリカにおけるサジェストペディア教育の学術団体、〈SALT〉 (the Society for Accelerative Learning and Teaching) の会長も務めたことのある、サジェストペディア研究の専門家である。博士は、1976年に“Learning In New Dimension”という研究所 (在サンフランシスコ) を創設、以来世界各地でサジェストペディアを中心にした教授法についての講演やワークショップを行ってきている。〈LIND〉というのは、この研究所の略称である。〈LIND〉は、語学教師の訓練講座も持っているが、去る7月2日に語研の教授法研究会で講演された田口広吉氏は、この訓練講座の終了生なのである。

今回のワークショップは、3月9日のデモンストレーション・レクチャーと、同10日から12日までの教師訓練講座から成るもので、前者は上智大学図書館、後者はゲート・インスティテュートのドイツ文化会館で、それぞれ、行われた。私の参加したのは前者のほうであった。9日の午前10時から午後6時まで行われた、このワークショップでは、〈LIND〉の教授法の基本概念となる、“Suggestopedia”, “Neuro-Linguistic Program-

ming”, “Holistic Learning”などの術語の説明とともに、〈LIND〉のモデル授業（対象言語はドイツ語）の骨格が紹介された。本稿では、主にモデル授業のテクニカルな面を中心に報告する。“Suggestopedia”については本稿末の参考文献(1)-(3)を、その他の術語については同参考文献(4), (5)を参照されたい。

〈LIND〉の授業構成は、サジェストペディアの基本的要素をすべて備えている。それは、すなわち、「導入」「二つのコンサート」および「練習」である。それぞれについて以下に簡単に説明する。（各項目についての詳細は、参考文献(1)-(3)参照）

- 1) 導入 (prelude/decoding…参考文献(1)の〈decoding〉にあたる)：  
新しい学習項目の導入。音声・ジェスチャー・イラスト・身体言語・イントネーションを活用する。後述するが、〈LIND〉では、この段階で TPR (Total Physical Response) のテクニックを使うのが特徴である。
- 2) 第一コンサート (concert one…参考文献(1)の〈active concert〉にあたる)：  
音楽をバックにして、教師が教材を読み、学習者は教材を見ながらその朗読を聞く。教師の読み方は、言語そのものではなくて、音楽のアーティキュレーションにあわせる。音楽は、古典派あるいは初期ロマン派。下つてもチャイコフスキーまで。
- 3) 第二コンサート (concert two…参考文献(1)の〈passive concert〉にあたる)：  
音楽をバックにして、教師が教材を読む。学習者は目を閉じて、その朗読を聞く。ここでは、教師の読み方は、言語そのもののアーティキュレーションにあわせて行う。音楽は、バロックのもの。
- 4) 練習 (activation/elaboration…参考文献(1)の〈elaboration〉にあたる)：

会話・ゲーム・寸劇・問題解決のプロセス・想像力活用練習などの練習形式を通じて学習項目を応用した練習を行う。

〈LIND〉では、「導入」に授業時間の3%、「第一コンサート」に3%、「第二コンサート」に4%、残りの90%が「練習」に、それぞれ、使われるのが標準とのことである。ただし、「練習」は翌日にまわしてもよい。したがって、ここで言う「授業時間」は、一課分の全授業時間の総合と考えてよいようである。これらの、授業構成の骨組みになる要素のほか、〈LIND〉では、リラックスのための「瞑想法」練習、学習者自身の自己イメージを肯定的なものにするための「変身」(参考文献(1) p. 98 参照) など、サジェストベディアの基本的要素が授業の中に組み込まれている。

教師に対する教授上のアドバイスの中にも、サジェストベディアの特色が出ているものが多い。配布された資料から若干引用してみると、次のようになる。

- \* 授業の初日に、全コース終了後に何が分かるようになってきているか、学習者に話しておくこと。
- \* 否定的な言動を避けること。学習者の潜在的な学習能力に配慮を示すこと。
- \* 次の授業に期待を持たせること。「あしたは、便利で覚えやすい…のテクニックについて勉強します。では、またあした」などと言うこと。
- \* 教室を楽しい雰囲気にしておくこと。
- \* 学習者の間違いは、学習者の個性に合わせて直すこと。ある者にはすぐに、かつ直接に、ある者にはそれとなくというように。
- \* 授業用のプリントは、やわらかい色調の紙で作ること。学習者が教室に出入りする際には、音楽をかけること。
- \* 学習者の習得と動機づけに責任を持つこと。かれらの潜在的な学習能力を引き出すことを、楽しく、かつやりがいのあることであると認

識すること。

この他に、特定の教授法や特定のクラス運営方式に固執せず、学習者や同僚の教師からのフィードバックによって自己のやり方を客観視し、授業進度や教授法を変更することについて柔軟性を保つように示唆してある。このように、〈LIND〉の教育姿勢には、サジェストペディアを教授法の中心に据えながら、その他の教授法・教育思想についても柔軟に取り入れているところが見られる。この点で見逃せないのが、〈LIND〉では、TPR（参考文例(2) pp. 100-111）をかなりの程度取り入れているということである。配布された資料でも、B4判の2ページを割いて、TPRの「命令法による語彙・文法項目の導入・練習」について解説を加えている。このうちから、「導入・練習順序の模範例」のところを、以下に必要な限りで簡略化して引用する。

- 1) 教師が簡単な命令を出し、学習者とともにその命令を実行する。
- 2) 教師は座ったままで命令を出し、学習者にその命令を実行させる。
- 3) 学習者に命令を出させて、教師がその命令を実行する。
- 4) 学習者をペアにして、互いに命令を出したりそれを実行させたりする。
- 5) 教師がいくつかの命令を続けて出し、合図とともに学習者に一度に実行させる。
- 6) 学習者にチームを組ませ、上の練習を競争でやらせる。
- 7) 「…が…するように言った」の形式で命令を出す。
- 8) 「…が…であることを…に伝えよ」の形式で学習者同士に命令を出させる。

この「模範例」は、一見、典型的なTPRに見えるが、もしそうであれば、3), 4), 8)などの練習はこの順序には入ってこないはずである。TPRでは、学習者のほうから命令を出せるようになるには、その学習者が心理的に抵抗なく発話の準備ができていなければならないと考えられている

のだが、そういう心理的準備 (readiness of production) ができるのは聴解力が十分についてから、上の「模範例」でいえば、1), 2), 5), 6), 7) が十分に練習された後になるはずだからである。一方、サジェストベディアでは、発話力の開発を聴解力の熟成まで差し控えるという考えはない。こういうところから見て、〈LIND〉における TPR は、サジェストベディアの枠組に取り込まれた形になっているとって差しつかえないであろう。

私の考えでは、〈LIND〉におけるようなサジェストベディアと TPR の併用は、望ましい効果を生むものと期待できる。TPR で発話力の開発を遅らせるのは、強制的な発話練習が学習者に誤りへの不安と正しい発音に向けての緊張感を催させるためであり、そのような心理状態が自発的な学習を阻害する恐れがあるためである。このような、極度に緊張した心理状態は、サジェストベディアが正しく応用されているクラスでは取り除かれる可能性が高い。この点で、サジェストベディアの授業では、発話力の開発を後回しにすることなく TPR の、語彙・文法項目の意味理解に対する効果を利用することができるのである。このような効果は、サジェストベディアの側にも有利である。というのは、サジェストベディアの教授者の中には、時として語彙・文法項目の意味理解に対してあまりに楽観的な態度を示す者があるからである。確かに、語彙や文法の上で学習者の母語と類似点の多い言語を教える場合には、同じページに学習者の母語による対訳のついたサジェストベディアの教材だけで十分かもしれない。しかし、学習者の母語と類似点の少ない言語が対象言語であるときは、「導入」や「練習」に際して学習項目の意味理解を確実ならしめるために TPR の併用は有効であろう。ワークショップ当日、シュミット博士はドイツ語のモデル授業を行ったが、その際、学習者に自分の体を触らせながら身体部位の名称を導入したり、時制や条件法の導入にパントマイムを使うアイデアを示したりした。これらが、TPR からヒントを得たテクニックである

ことは明らかである。サジェストペディアと TPR の併用の割合について、シュミット博士は「それぞれ70%、30%」と表現したが、外国語学習における語彙・文法項目の意味理解の重要性を考えると、この割合を五分五分と見てもさほど見当違いではないだろう。

今回のワークショップは、サジェストペディアの実践例を知るとともに、異なる教授法の併用の可能性についての知見が得られておおいに参考になった。再びこのような情報を得る機会を望むとともに、自らもさまざまな教授法の長所を取り入れた授業の実践をこころがけようと思う次第である。

#### 〈参考文献〉

- (1) 川口義一・1983・「サジェストペディアの理論と実践」〈日本語教育〉第51号
- (2) OLLER, John W. ed.・1983・“Methods That Work”・Newbery House, Rowley
- (3) SCHLUTE-PERKUM, Rudolf・1984・“Suggestopädie und Psychopädie”・《Aspekt》18号・立教大学文学部
- (4) SCHMID, Charles・1980・“New Dimension in Teaching”・The LIND Institute, San Francisco
- (5) SCHMID, Charles・1985・“Learning in New Dimension”・The LIND Institute, San Francisco

なお、参考資料としてワークショップ当日配布された、英語対訳と日本語対訳のサジェストペディア・ドイツ語教材の第1ページ目を、それぞれ以下に挙げておく。

	(Das Wetter ist schön. Die Sonne scheint. Vor einer Höhle.)	The weather is beautiful The sun is shining. In front of a cave.
Wieland-	Entschuldigen Sie, Herr Professor. Guten Tag. Ich heiße Heidi Wieland.	Excuse me.  Good day. My name is Heidi Wieland.
Prof.		
Walter-	Ah, guten Tag, Fräulein Wieland. Es freut mich sehr.	Oh, good day, Miss. Wieland. Pleased to meet you.
Wieland-	Frau.	Mrs.
Walter-	Ach, ja, Frau Wieland. Sie sind Journalistin, nicht wahr?	Oh, yes, Mrs. Wieland You are a journalist, aren't you?
Wieland-	Ja, richtig. Ein schöner Tag, nicht wahr? Die Luft ist herrlich. Sie ist frisch und rein.	Yes, right. A beautiful, day, isn't it?  The air is wonderful. It's fresh and pure.
Walter-	Ja, das stimmt.	Yes, that's right.
Wieland-	Nur noch eine Minute. Ich bin sehr gespannt.	One more minute. I'm very impatient.
Walter-	Ich auch. Es sind viele Leute hier heute.	So am I. There are a lot of people here today.
Wieland-	Schauen Sie! Da ist er. Er kommt jetzt heraus. (Jeff Raimey kommt aus der Höhle heraus. Er hebt die Hand. Alle glauben, er möchte sprechen. Er will aber nur die Augen schützen. Die Sonne scheint. Er schaut herum. Er interessiert sich beson- ders für die Blumen.)	Look! There he is. He's coming out. (Jeff Raimey comes out of the cave. He raises his hand. Everyone believes, he wants to speak. But he only wants to protect his eyes (from the sun). The sun is shining. He looks around. He's especially interested in the flowers.)
Wieland-	Er spricht aber nicht. Ich werde ihm helfen.	But he's not speaking. I'll help him.
Walter-	Nein, lassen Sie ihn in Ruhe. (Ein Vogel singt. Jeff hört den Vogel zu. Er hebt den Kopf. Seine Augen sind halb zu.)	Non, leave him in peace. (A bird sings. Jeff listens to the bird. He raises his head. His eyes are half closed.)
Jeff-	Oh!	Oh!
Walter-	Hören Sie zu! Er spricht.	Listen. He's speaking.

[ ]: 直訳, 日本語では省略される場合が多い

< >: ドイツ語にはないが日本語として加えた方が自然な表現になる場合

ERSTER AKT

WOLLEN IST KÖ

ママ (おそらく KÖNNEN)

Die Ankunft

到着

Im Flugzeug.

機内にて

Es ist elf Uhr morgens.

午前11時[だ]

Das Flugzeug fliegt

飛行機は

durch die Wolken.

雲の中を飛行中

Sie sind rosa und golden.

<雲は>ピンクや金色[だ]

Und da kommt die Sonne!

そこに太陽があらわれる!

1

Dame- Fräulein, einen Kaffee, bitte.

婦人—[おじょうさん], コーヒーを一ぱい, お願いします

Stewardess-Einen kaffee, für die gnädige Frau.

スチュワーデス—お客様

Mit Milch oder ohne Milch?

コーヒーです

ミルクを入れますか [入れませんか] ?

Dame- Mit Milch, bitte.

婦人— ミルクを入れて下さい。

Stew.- Mit Milch, gut.

ス— <ミルクティー>です。ね<かしこまりました>

Und Sie, junger Mann?

それから, そちら [の若い男性] は?

Was möchten Sie trinken?

お飲物は何かよろしいですか?

Junge- Bringen Sie mir, bitte, eine Tasse Tee.

青年— ぼくには, すみませんが

Mit Zitrone.

紅茶を一ぱい下さい。

Vielen Dank.

<レモンティーを>

[どうもありがとう] = <お願いします>

Stew.- Sehr schön. Mit Zitrone. (sie geht)

ス— [とても結構] = <かしこまりました> ([彼女]立ち去る)

2

(Die Dame sieht aus dem Fenster. Sie lächelt.)

([例の]婦人は窓の外をながめている。 [彼女は]ほほ笑む)

Junge- Sie fliegen zum ersten Mal nach Wien, nicht wahr?

青— ウィーンにいらっしゃるのは初めてですね?